

令和元年度事業報告

我が国の経済は、米国と中国の貿易摩擦がエスカレートし世界経済が混沌とする中、10月からの消費税の引き上げにより家計消費が落ち込み、さらには年末に中国で発生した新型コロナウイルス感染症が国内でも急速に拡大し、インバウンドの減少やイベント、会議の自粛、学校の休校などによりリーマンショックを上回る景気の減速となった。

畜産分野では、環太平洋経済連携協定（TPP）や欧州連合との連携協定（EPA）が2年目を迎え、牛肉、豚肉、ナチュラルチーズなどの輸入が増加して国産の消費減少による経営への影響が懸念されたが、生産基盤の強化対策等によって本県の生乳生産量や和牛繁殖頭数は増加した。畜産物価格も概ね堅調に推移してきたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、3月以降は外食需要の減少に伴い和牛の肥育牛や子牛価格が大きく値下がりし、先行き不透明な状況となった。

こうした中、本協会では国、中央団体、県等で措置された事業に鋭意取り組む他、今日の情勢下で必要とされる公募事業に積極的に応募し、それぞれ関係機関の指導や協力も得て事業成果を生産現場につなげました。

経営対策では、酪農の収益力強化と労働負担軽減に向けたロボットやICT導入のためのクラスター事業、肉用牛の生産基盤拡大に向けた優良牛及び飼料生産機械導入事業、肥育牛や子牛の価格安定制度の推進、和牛入門講座や和牛未来塾による担い手の育成、女性の経営への参画を促進するためのスキルアップ研修会など畜産経営の安定と持続的な発展に向けた支援活動を行いました。

衛生対策では、近隣国での悪性伝染病の発生を受けた防疫演習や防疫互助基金の造成、牛ウイルス性下痢・粘膜病の清浄化、牛異常産ほか各種ワクチンの接種推進、アフリカ豚熱の侵入防止対策など、家畜伝染性疾病の発生・流行防止と安全で生産性の高い畜産経営の実現に向けた支援活動を行いました。

また、飼養衛生管理が行き届いたHACCP認証の取得支援、そして安全で公正な生乳の生産流通を支える厳正な生乳検査など、消費者から信頼され求められる畜産業の維持発展を目指した支援事業に努めました。

終始ご指導とご協力をいただいた農林水産省及び中央団体、そして岡山県及び県内関係機関の皆様にご心からお礼を申し上げます。

各事業の実施内容は次のとおりです。

1 総会及び役員会

(1) 総会

期 日	場 所	内 容
定時総会 令和元年6月17日	岡山県農業共済会館 6階 大会議室	議 事 第1号議案 平成30年度事業報告及び決算について 第2号議案 令和元年度事業計画及び予算について 第3号議案 令和元年度会費の額及び徴収方法について 第4号議案 令和元年度借入金最高限度額について 第5号議案 令和元年度役員報酬の支給額について 第6号議案 役員改選について 第7号議案 その他 報告事項 公益目的支出計画実施報告について
臨時総会(書面) 令和元年9月6日	岡山県畜産協会	第1号議案 書面による議決の承認について 第2号議案 役員補欠選任について

(2) 理事会

期 日	場 所	内 容
令和元年5月31日	岡山県農業会館2階 全国農業協同組合連 合会岡山県本部 第1会議室	議 事 第1号議案 平成30年度事業報告及び決算について 第2号議案 令和元年度事業計画及び予算並びに関連項目につ いて 第3号議案 公益目的支出計画実施報告について 第4号議案 役員改選について 第5号議案 定時総会提出議案について 第6号議案 その他
令和元年 6月17日	岡山県農業共済会館 6階 研修室	第1号議案 顧問、会長、副会長、専務理事の選任並びに代表理 事、業務執行理事の選任について 第2号議案 役員報酬の支給について 第3号議案 その他
令和元年 8月21日	岡山県農業会館2階 全国農業協同組合連 合会岡山県本部 第1会議室	第1号議案 臨時総会の開催について 第2号議案 臨時総会提出議案について (1) 役員補欠選任について (2) 書面による議決の承認について

期 日	場 所	内 容
令和元年11月15日	岡山県農業会館2階 全国農業協同組合連 合会岡山県本部 第1会議室	報 告 事 項 代表理事の職務執行状況報告について 業務執行理事の職務執行状況報告について 第1号議案 令和元年度予算の補正について 第2号議案 令和元年度上期事業実施状況と下期の見通しにつ いて 第3号議案 その他
令和2年2月10日 (みなし決議)	岡山県畜産協会	理事会の決議があったものとみなされた事項 肉用子牛生産者補給金交付業務に関する事務を晴れの国岡山 農業協同組合に委託すること
令和2年3月18日	岡山県農業会館2階 全国農業協同組合連 合会岡山県本部 第1会議室	報 告 事 項 令和元年度事業実績及び決算の見込みについて 賛助会員の退会について 代表理事の職務執行状況報告について 業務執行理事の職務執行状況報告について 第1号議案 令和2年度事業計画及び予算について 第2号議案 肉用子牛生産者補給金制度第7業務対象年間に係 る諸手続きについて 第3号議案 給与支給細則の一部改正について 第4号議案 役員の報酬並びに費用等の支給に関する規程の一 部改正について 第5号議案 令和2年度執行体制について 第6号議案 その他

(3) 監事会

期 日	場 所	内 容
令和元年5月27日	岡山県農業会館5階 畜産協会役員室	平成30年度事業報告、計算書類及びその附属明細書、公益目的 支出計画実施報告

1. 事業実績

(1) 事業概要

本協会は、畜産経営の安定的発展と畜産の振興に寄与することを目的に以下の5種類の事業を実施した。

- ① 畜産経営安定のための経営技術支援、調査研究、情報提供、技術知識の普及啓発
- ② 一般消費者等への畜産及び畜産物の各種情報提供、知識の普及・啓発
- ③ 畜産経営の安定のための各種補てん金、補給金の交付
- ④ 家畜の健康保持及び畜産物の生産衛生に係る技術指導及び自衛防疫の推進並びに死亡獣畜の適正処理に関する支援
- ⑤ 生乳取引の公正化のための検査及び生乳品質向上の指導

(2) 公益目的事業

1) 公益目的事業1

畜産経営の安定と、安全な畜産物の安定供給に資するための事業を実施した。

事業名	事業概要	実施内容
自衛防疫活動強化 対策支援事業 (岡山県畜産協会)	農場HACCP認証取得支援、牛異常産ワクチン接種支援等を実施した。 また、牛舎の消毒や暑熱対策のため、農家に石灰乳塗布機を貸し出した。	認証取得支援 2農場 ワクチン接種 12,283頭 石灰乳塗布機貸出件数 2農場

2) 公益目的事業2

酪農収益の改善に資するため、生乳品質向上の指導を実施した。

事業名	事業概要	実施内容
生乳品質向上対策 事業 (岡山県畜産協会)	粗飼料自給率の高い地域の農家を対象に、土壌成分が乳質や疾病発生に影響することに鑑み、土壌成分分析を行い、施肥設計を支援した。	成分品質対策 土壌分析：24戸50点

(3) 継続事業

1) 継続事業 1

畜産経営の安定に資するため、経営技術支援、調査、情報提供、技術知識の普及啓発事業を以下のとおり実施した。

事業名	事業概要	実施内容
畜産経営技術高度化促進事業 (岡山県)	<p>県が定める「酪農及び肉用牛生産の近代化計画」の達成に向け、畜産経営の現状分析を行うとともに、関係機関の連携による支援指導體制の構築と支援活動の推進を図った。</p> <p>酪農経営支援チーム活動では、乳質改善に係る改善対策と繁殖に係わる分析による対策・機械導入事業に係わる妥当性検証と導入成果の評価支援を実施し、岡山和牛子牛資質向上対策協議会活動では、継続的な岡山和牛推奨子牛の展示等により生産者に取り組みの浸透を図ったが、本年度の適合率は17.1%に留まった（取り組み当時の平成20年度：6.1%）。</p> <p>また、後継者育成を図るため、(公財)中国四国酪農大学校において、オープンキャンパス開催支援を実施した。</p>	<p>酪農経営支援チーム 県チーム推進会議等 4回</p> <p>和牛子牛資質向上対策協議会 幹事会 16回 セミナー開催 1回 個別支援 34件 フォローアップ 70件</p> <p>HPアクセス数 約829,324ページ 個別経営調査 25件</p>
畜産特別資金推進指導事業 (中央畜産会)	<p>畜産特別資金借受者の経営体質強化のため、定期的な経営状況の把握を行うとともに、経営分析に基づく指導及び濃密指導を実施するとともに、融資機関に対する指導を行った。</p>	<p>協議会開催 3回 濃密指導 2戸 現地指導等 3戸 セミナー 1回</p>
畜産ヘルパー事業 円滑化対策事業 (県、市町村、関係団体)	<p>県、関係団体で造成した基金を活用して、以下のヘルパー活動に対し助成した。</p> <p>①ヘルパー派遣活動 ②酪農経営安定化支援ヘルパー事業で取り組む事業</p>	<p>酪農ヘルパー派遣旅費の一部に対する支援 安定化支援ヘルパー事業に係る自己負担部分の一部に対する支援</p>
酪農経営安定化支援ヘルパー事業 (農畜産業振興機構)	<p>ゆとりある生産性の高い酪農経営の実現及び担い手の確保に資するため、以下の事業を実施した。</p> <p>①酪農の担い手となる酪農ヘルパー人材育成支援 ・酪農ヘルパーに対する通勤・住宅手当支援 ・臨時ヘルパー出役支援</p> <p>②傷病時利用の円滑化 ・互助制度に基づくヘルパー料金の負担軽減</p> <p>③利用組合の強化 ・推進協議会の開催 ・広域利用調整による遠距離出役支援 ・傷害保険、財物賠償保険の加入経費への補助 ・防疫機器等の整備や出役調整事務の合理化</p>	<p>臨時出役補助 867千円 傷病利用 延べ54人 派遣日数 527日 互助組織補助 2,108千円 総距離30kmを超える派遣に対する燃料費補助 3,754千円 保険料補助 755千円 防疫資材購入補助 285千円 防疫対策会議開催 1回</p>

事業名	事業概要	実施内容						
肉用牛経営安定対策補完事業 (農畜産業振興機構)	肉用牛生産基盤の安定化を図るため、肉用牛ヘルパー組織活動や優良雌牛増頭等の肉用牛生産振興の取組に対し、補助金、奨励金を交付した。特に中核的担い手育成増頭推進では、計画161頭に対し、奨励金交付頭数は及ばなかったものの、35名で164頭の増頭が図れた。 ①中核的担い手育成増頭推進 ②肉用牛ヘルパー推進 また、本事業の適性かつ円滑な推進を図るための調査・指導等を行った。	① 中核増頭 164頭 うち奨励金交付136頭 (JA岡山、岡山東、岡山西、びほく、津山、勝英) ② ヘルパー活動2組合 (新見市和牛改良組合、津山肉用牛ヘルパー組合)						
和牛の担い手高度化支援強化事業 (全国競馬畜産振興会)	和牛繁殖経営の生産基盤強化を図るために、新規就農者の確保・育成を図る和牛入門講座とともに、繁殖経営に参入し10年以内の生産者等を対象にスキルアップを目指す和牛未来塾を開催した。あわせて、経営診断と経営計画の作成を支援し、意欲と技術に富む担い手を育成し、繁殖和牛の増頭を図った。 (事業実施期間 3年間 平成30～令和2年度) <table border="1" data-bbox="451 1055 1067 1151"> <thead> <tr> <th>入門講座総受講者数</th> <th>うち新規就農者数</th> <th>増頭効果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>116人</td> <td>24人</td> <td>503頭</td> </tr> </tbody> </table>	入門講座総受講者数	うち新規就農者数	増頭効果	116人	24人	503頭	和牛入門講座 参加者 8名 研修会 2回 牧場体験実習 8名×2回 和牛未来塾 参加者 延べ73名 研修会 2回 先進地視察 1回 経営診断と計画の作成 9件 支援人材交流会 1回
入門講座総受講者数	うち新規就農者数	増頭効果						
116人	24人	503頭						
広報事業 (岡山県畜産協会)	月刊誌「岡山畜産便り」を編集・発行し、県内外の指導者、畜産経営者に販売するとともに、中央畜産会が発行する畜産コンサルタント誌、その他畜産関係の優良図書を斡旋した。	畜産便り 年6回 1回720部発行						
畜産振興対策事業 (岡山県畜産協会)	各種共進会・畜産関連イベントに職員の派遣や、賞品の提供等の支援をおこなった。	枝肉共進会等 18名 賞品賞状の交付 6件						
地域畜産生産性向上対策事業 (岡山県畜産協会)	肉用牛経営の活性化を図るため、関係機関との連携のもと、生産性向上の地域勉強会や先進事例の調査・分析を行い、肉用牛経営の収益性の向上と生産基盤の強化に取り組んだ。	研修会開催 6回 参加者 延べ160名						

2) 継続事業2

畜産経営の安定に資するため、各種補填金、補給金を交付する事業を以下のとおり実施した。

事業名	事業概要	実施内容																																																																																												
肉用牛肥育経営安定交付金制度 (農畜産業振興機構)	<p>肉用牛肥育経営の安定化と肉用牛生産基盤の拡大に資するため、あらかじめ個体登録され、出荷した肉用牛に対し、その月毎の粗収益が生産費を下回った場合、その差額の9割について、生産者(一部県が負担)積立金と農畜産業振興機構からの交付金を併せて交付するための事業の円滑な推進を図った。</p> <p>○生産者負担金単価 (単位:円/頭)</p> <table border="1" data-bbox="440 703 1074 965"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>肉専用種</th> <th>交雑種</th> <th>乳用種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">平成31年4月～令和2年3月</td> <td>県</td> <td>750</td> <td>2,125</td> <td>2,375</td> </tr> <tr> <td>生産者</td> <td>5,250</td> <td>14,875</td> <td>16,625</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6,000</td> <td>17,000</td> <td>19,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>○交付金単価 (単位:円/頭)</p> <table border="1" data-bbox="440 1037 1074 1581"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>肉専用種</th> <th>交雑種</th> <th>乳用種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="12">平成31年</td> <td>1月</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>54,378.9</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>64,769.4</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>74,024.1</td> </tr> <tr> <td>4月</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>42,722.1</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>30,806.1</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>31,029.3</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>35,702.1</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>26,905.5</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>28,826.1</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>—</td> <td>15,271.2</td> <td>48,722.4</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>—</td> <td>356.4</td> <td>53,726.4</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>63,042.3</td> </tr> </tbody> </table>			肉専用種	交雑種	乳用種	平成31年4月～令和2年3月	県	750	2,125	2,375	生産者	5,250	14,875	16,625	合計	6,000	17,000	19,000			肉専用種	交雑種	乳用種	平成31年	1月	—	—	54,378.9	2月	—	—	64,769.4	3月	—	—	74,024.1	4月	—	—	42,722.1	5月	—	—	30,806.1	6月	—	—	31,029.3	7月	—	—	35,702.1	8月	—	—	26,905.5	9月	—	—	28,826.1	10月	—	15,271.2	48,722.4	11月	—	356.4	53,726.4	12月	—	—	63,042.3	<p>個体登録頭数 (平成31年4月～令和2年3月)</p> <table border="1" data-bbox="1129 434 1433 595"> <tbody> <tr> <td>肉専用種</td> <td>3,098 頭</td> </tr> <tr> <td>交雑種</td> <td>8,976 頭</td> </tr> <tr> <td>乳用種</td> <td>2,918 頭</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>14,992 頭</td> </tr> </tbody> </table> <p>補填金交付実績 (平成31年1月～令和1年12月販売分)</p> <table border="1" data-bbox="1129 763 1433 1256"> <tbody> <tr> <td>肉専用種</td> <td>0 頭</td> <td>0 円</td> </tr> <tr> <td>交雑種</td> <td>1,430 頭</td> <td>10,920,166 円</td> </tr> <tr> <td>乳用種</td> <td>2,721 頭</td> <td>126,522,997 円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,151 頭</td> <td>137,443,163 円</td> </tr> </tbody> </table>	肉専用種	3,098 頭	交雑種	8,976 頭	乳用種	2,918 頭	合計	14,992 頭	肉専用種	0 頭	0 円	交雑種	1,430 頭	10,920,166 円	乳用種	2,721 頭	126,522,997 円	合計	4,151 頭	137,443,163 円
		肉専用種	交雑種	乳用種																																																																																										
平成31年4月～令和2年3月	県	750	2,125	2,375																																																																																										
	生産者	5,250	14,875	16,625																																																																																										
	合計	6,000	17,000	19,000																																																																																										
		肉専用種	交雑種	乳用種																																																																																										
平成31年	1月	—	—	54,378.9																																																																																										
	2月	—	—	64,769.4																																																																																										
	3月	—	—	74,024.1																																																																																										
	4月	—	—	42,722.1																																																																																										
	5月	—	—	30,806.1																																																																																										
	6月	—	—	31,029.3																																																																																										
	7月	—	—	35,702.1																																																																																										
	8月	—	—	26,905.5																																																																																										
	9月	—	—	28,826.1																																																																																										
	10月	—	15,271.2	48,722.4																																																																																										
	11月	—	356.4	53,726.4																																																																																										
	12月	—	—	63,042.3																																																																																										
肉専用種	3,098 頭																																																																																													
交雑種	8,976 頭																																																																																													
乳用種	2,918 頭																																																																																													
合計	14,992 頭																																																																																													
肉専用種	0 頭	0 円																																																																																												
交雑種	1,430 頭	10,920,166 円																																																																																												
乳用種	2,721 頭	126,522,997 円																																																																																												
合計	4,151 頭	137,443,163 円																																																																																												

事業名	事業概要	実施内容																														
肉用子牛生産者補給金制度 (農畜産業振興機構)	<p>肉用子牛の安定生産に資するため、肉用子牛の価格が低落し、下表①の保証基準価格等を下回った場合、生産者に対して補給金を交付する制度であるが、第1～3四半期において、その他の肉専用種の売買価格が保証基準価格を下回ったものの、各期とも交付対象牛はなく、全品種で補給金の交付はなかった。</p> <p>なお、令和元年10月1日からの消費税引上げに伴い、保証基準価格等は、下表②のとおり改定された。</p> <p>①平成31年度(改定前)</p> <table border="1" data-bbox="437 696 1088 882"> <thead> <tr> <th></th> <th>黒毛和種</th> <th>その他の肉専用種</th> <th>交雑種</th> <th>乳用種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保証基準価格</td> <td>531,000</td> <td>314,000</td> <td>269,000</td> <td>161,000</td> </tr> <tr> <td>合理化目標価格</td> <td>421,000</td> <td>249,000</td> <td>212,000</td> <td>108,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>②令和元年度(改定後/10月1日～)</p> <table border="1" data-bbox="437 972 1088 1158"> <thead> <tr> <th></th> <th>黒毛和種</th> <th>その他の肉専用種</th> <th>交雑種</th> <th>乳用種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保証基準価格</td> <td>541,000</td> <td>320,000</td> <td>274,000</td> <td>164,000</td> </tr> <tr> <td>合理化目標価格</td> <td>429,000</td> <td>253,000</td> <td>216,000</td> <td>110,000</td> </tr> </tbody> </table>		黒毛和種	その他の肉専用種	交雑種	乳用種	保証基準価格	531,000	314,000	269,000	161,000	合理化目標価格	421,000	249,000	212,000	108,000		黒毛和種	その他の肉専用種	交雑種	乳用種	保証基準価格	541,000	320,000	274,000	164,000	合理化目標価格	429,000	253,000	216,000	110,000	個体登録頭数 (平成31年1月～令和元年12月) 黒毛和種 3,461頭 交雑種 2,747頭 乳用種 507頭 その他の肉専用種1頭 合計 6,716頭
	黒毛和種	その他の肉専用種	交雑種	乳用種																												
保証基準価格	531,000	314,000	269,000	161,000																												
合理化目標価格	421,000	249,000	212,000	108,000																												
	黒毛和種	その他の肉専用種	交雑種	乳用種																												
保証基準価格	541,000	320,000	274,000	164,000																												
合理化目標価格	429,000	253,000	216,000	110,000																												
黒毛和種新規契約奨励事業 (畜産協会)	<p>肉用子牛生産者補給金制度における子牛の個体登録頭数の促進を図るため、新規に個体登録する契約生産者に対し奨励金として交付(生産者負担金相当額を助成)した。令和元年度は、9名の新規契約生産者等から登録があり、第6業務対象年間の対象は34名となった。</p>	契約生産者 34名 交付頭数 734頭 交付額 226千円																														
肉用子牛生産者補給金制度運営適正化事業・指定協会運営体制支援事業 (農畜産業振興機構)	<p>肉用子牛生産者補給金制度に係わる業務の適正な実施等を図るため、事務委託先へ委託による対象子牛の個体登録、個体識別及び保留確認等業務の適正且つ円滑な実施に努めた。</p>	事務委託先 農協等 13団体																														
肉豚経営安定交付金制度 (農畜産業振興機構) 肉豚価格安定事業 (岡山県・全農)	<p>養豚経営の安定を図るため、平均粗収益が平均生産コスト(四半期毎に算定)を下回った場合に、その差額の9割について積立金より補填金を交付するものであるが、今年度の補てん金の交付はなかった。</p> <p>・積立金 1,600円 生産者等:国 = 1(400円) :3(1,200円)</p>	参加申請者 6戸 事業対象頭数 58,938頭																														

3) 継続事業3

畜産物の生産衛生に係る技術指導及び自衛防疫の推進並びに死亡獣畜の適正処理に関する支援を以下のとおり実施した。

事業名	事業概要	実施内容
総合食料対策事業 (岡山県)	<ul style="list-style-type: none"> 家畜衛生対策事業として、地域推進会議を開催し、獣医師等に対し自衛防疫の推進を図った。 農場の防疫対策実態調査、農家・獣医師への広報活動を実施した。 指定獣医師研修会を開催した(ノトバイオート技術と腸内細菌叢研究：腸内細菌叢と疾病との関係)。 	地域会議： 5回 広報：家畜衛生カレンダー 930部 異常産啓発チラシ 2回 2,500部 研修会出席者 24名
特定疾病自衛防疫推進事業 (岡山県)	<ul style="list-style-type: none"> 県の補助によりワクチン接種を組織的に実施し鶏ニューカッスル病 (ND) の発生防止に努めた。 	実績羽数 ND (N・B含む) 14,087 千羽
家畜生産農場衛生対策事業 (農林水産省)	<ul style="list-style-type: none"> ヨーネ病対策 ヨーネ病発生農場の患畜と疫学的に関連が高い牛のとう汰については要望がなかった。 牛白血病対策 牛白血病の感染拡大防止を図るため、発生農場等での陽性牛を確認するための検査等を行った。しかし、感染源となる高リスク牛のとう汰は実施せず。 牛ウイルス性下痢・粘膜病対策 感染防止を図るため、P I 牛(ウイルスを持続して保有・排出し、感染源となる牛)を摘発する検査を行うと共に、P I 牛のとう汰に対して助成した。 農場飼養衛生管理強化対策 飼養衛生管理を向上させるため、指導チェック表を作成し、指定獣医師等による農場指導を行った。 伝染病発生防止の推進 家畜の伝染性疾病の発生、流行防止を推進するため牛異常産ワクチンの接種を推進した。 	検討会議等 4回 とう汰頭数 0頭 白血病検査 2,016頭 とう汰頭数 0頭 P I 牛摘発検査 603頭 P I 牛のとう汰 8頭 農場巡回指導 170 戸×2 回 牛異常産ワクチン接種 12,321頭
家畜防疫互助基金支援事業 (農畜産業振興機構)	口蹄疫等海外悪性伝染病の発生に備え、農家の損害補てんのための基金を積み立てる事業である。 今期実施期間(平成30～令和2年度) 本年度は、今期実施期間の2年目であり、変更、新規の加入推進、豚追加納付を図った。	加入戸数(元年度末計) 牛： 340戸 ・乳用牛 165戸 ・肉用牛 175戸 豚： 7戸 生産者積立金： 11,266千円

事業名	事業概要	実施内容
牛疾病検査円滑化 推進対策事業 (農林水産省)	死亡牛の円滑かつ適正なBSE検査処理体制を維持するため、協議会を開催するとともに、事業対象農家に輸送費、処理費の補助金を交付した。(対象牛96ヵ月以上等)	協議会： 1回 死亡牛頭数 161頭

(4) その他事業

1) その他事業1

畜産経営の安定に資するため、経営技術支援、調査、情報提供、技術知識の普及啓発を支援する事業を以下のとおり実施した。

事業名	事業概要
畜産経営技術指導 事業 (地方競馬全国協会)	本協会が取り組んでいる、①国際化に対応しうる競争力の高い担い手の育成・確保に取り組む業務、②消費者に対する地域畜産の理解の増進業務、③馬事畜産振興普及啓発業務、④畜産を核とした地域の活性化業務に対し、活動費の不足分に対して補助を得た。

2) その他事業2

畜産経営の安定に資するための各種補填金、補給金を交付する事業を補完するための事業を以下のとおり実施した。

事業名	事業概要	実施内容
マル緊特別事業 (岡山県畜産協会)	肉用牛肥育経営安定交付金制度を補完し、円滑に事業を推進するため、事務委託先に対する支援や調査・指導等を実施した。	事務委託先 9ヵ所
肉用子牛価格安定 対策特別事業 (岡山県畜産協会)	肉用子牛生産者補給金制度を補完し、登録業務の円滑な実施に努めた。	個体登録頭数 6,716頭

3) その他事業3

自衛防疫の推進並びに死亡獣畜の適正処理を円滑に実施するための事業を以下のとおり実施した。

事業名	事業概要	実施内容
予防注射事業 (岡山県畜産協会)	家畜の伝染性疾病の発生・流行を防止するため防疫体制の強化、各種予防注射を計画的に実施した。 主要ワクチン接種 R1 H30 牛異常産3種混合 3,592頭 (6,079頭) 牛異常産4種混合 8,691頭 (6,847頭) 牛IBR6種混合 5,391頭 (1,236頭) 牛嫌気性5種混合 1,776頭 (1,635頭)	実績頭羽数 H30 牛：37,327頭 (35,101) 馬：132頭 (156) 豚：1,874頭 (1,534) 鶏：14,087千羽(14,307)

事業名	事業概要	実施内容
岡山県家畜衛生管理センター維持管理業務 (岡山県)	死亡した牛のBSE検査のため岡山県が設置した集荷採材保管施設の維持管理を受託し、適確で円滑なBSE検査を補完した。	搬入された検査対象牛の保管・搬出等 154頭

4) その他事業4

生乳取引の公正化並びに生乳品質向上のための検査を以下のとおり実施した。

事業名	事業概要	実施内容
生乳検査受託事業 生乳格付検査事業 (中国生乳販連)	中国生乳販売農業協同組合連合会と畜産協会による業務委託に基づき、生乳の格付検査を行い、生乳の公正かつ円滑な取引と品質向上に努めた。 (格付受託検査) ・検査回数：3回／月（上旬・中旬・下旬） ・乳業者：オハヨー乳業(株)他中国地区内乳業者 ・検査乳量：16,050 t 程度／月 ・検査料：0.05円/kg	総検査乳量 188,094 ^ト
生乳成分検査事業 (中国生乳販連)	中国生乳販売農業協同組合連合会からの受託により、生産者ごとの乳成分や細菌数の検査及び牛群検定農家の個体別乳成分検査を行い、乳牛の飼育管理や乳質の向上に努めた。 (検査項目) 脂肪率・蛋白質・乳糖・無脂乳固形分率 全乳固形分率・体細胞数・細菌数 (検査料) ・取引検査：0.1円/kg（農家生産量） (農家別分配・細菌検査) ・牛群検定検査：50円/件 ・指導検査：100円/件 ・組合員外検査：1,500円/件	農家別分配・細菌検査 277,077 ^ト 牛群検定検査 217,545件 指導検査 34,523件 組合員外検査 807件

5) その他事業のその他

本協会の設立目的を達成するため、以下事業を実施した。

事業名	事業概要	実施内容
畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（畜産クラスター機械導入事業） （中央畜産会）	地域の畜産関係者が有機的に連携・結集して地域一帯となって畜産の収益性の向上を図る畜産クラスターの仕組みを活用し、畜産クラスター計画を策定して、生産コストの低減、畜産物の高付加価値化、飼料自給率の向上等に取り組む畜産クラスター協議会の取り組みに対し、公益社団法人中央畜産会が支援を行う業務の一部を県窓口団体として実施し、事業の推進、参加申請書の取りまとめ業務等を行った。	事業説明会開催 1回 要望取りまとめ 1回 R1年度事業割当額 協議会数 7協議会 機械件数 61件 補助金額 205,498千円
畜産クラスター推進全国実態調査事業 （中央畜産会）	畜産クラスターに係る取り組みを推進するため、先進的な経営体を対象に経営調査を実施した。	調査実施農家 酪農家 5戸 肉用牛繁殖農家 5戸
近代化リース調査事業 （近代化リース協会）	（公財）畜産近代化リース協会が農家に貸し付けた、機械施設の確認と適正な利用を推進するため、巡回指導を行った。また、新規開拓のため、研修会等において利用拡大を図った。	確認指導 20戸 26物件 新規開拓PR 1回
酪農ヘルパー推進事業委託業務 （ヘルパー全国協会）	酪農経営安定化支援ヘルパー事業に係る利用実態調査を実施し、報告するとともに酪農ヘルパー事業の推進を行った。	利用実態調査 1回
飼料自給率向上対策事業 （岡山県）	自給飼料生産を推進するため、自給飼料の生産技術研修、給与流通体制の検討、コントラクターの利用調整を行った。 ○コントラクターによる収穫面積（R1） WCS用稲：323ha（H30、320ha） 飼料用トウモロコシ：569ha（H30、569ha）	稲WCS情報交換会 1回 コントラクター総会 1回 耕畜連携推進研修会 2回
環境負荷軽減型酪農経営支援事業 （中国四国農政局）	環境負荷軽減型酪農経営支援事業において、おかもやま酪農協組合員以外の酪農家を対象に奨励金を交付するための要件である環境負荷軽減の取組内容の確認等を行った。	事業参加者 3名 奨励金交付額 981,000円
畜産女性経営者育成強化事業（畜産女性経営者の地域育成支援事業） （中央畜産会）	畜産に携わる女性が地域のリーダーとして活躍するために、若手女性経営者を対象に労働環境や飼養技術等について勉強会を開催するとともに、他県との情報交換等を行った。 <研修内容> 県内の畜産と農産関係の女性農業者を参集し、意見交換を行うと同時に経営戦略の考え方や経営のパートナーに学びを伝える方法を共に学んだ。	地域間交流 3回 研修会 1回

事業名	事業概要	実施内容
畜産経営体生産性向上対策事業及び酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業 (中央畜産会)	酪農の労力負担軽減に資する発情発見装置や自動給餌機械装置の導入を支援し、酪農家の働き方改善を図った。	推進会議の開催 3回 現地調査 7回 対象経営体 2件 補助金額 2,163千円
養豚経営安定対策補完事業 (農畜産業振興機構)	本県養豚経営の維持・発展に資するため、飼養管理技術向上研修会を開催した。 ・1回目 イノシシの生態と侵入防止対策について 今だからやる！豚コレラ衛生対策の強化 ・2回目 おいしい豚肉を生産するためのワンポイントアドバイス	研修内容検討会議 3回 研修会 2回
馬伝染性疾病防疫推進対策事業 (中央畜産会)	乗馬クラブの乗用馬等、競走馬以外の馬にインフルエンザワクチン接種を推進し、ワクチン接種1回分の費用を助成した。	推進会議 2回 乗馬クラブ等 10カ所 ワクチン接種頭数 177頭
地域自衛防疫推進事業 (中央畜産会)	防疫演習：岡山県等と共催で高病原性鳥インフルエンザ等に係る防疫演習を実施し、防護服等を提供した。	推進会議 1回 防疫演習 11回
地域農場HACCP認証支援事業 (中央畜産会)	肉用牛及び採卵鶏経営での県内初の認証取得を支援した。(各1農場)。 7農場において引き続き構築及びその後のフォローアップ等の指導を行った。また、先進事例についての研修会を開催した他、運用上の効果、課題等を普及推進連絡会議で検討し普及推進に努めた。	普及推進会議 2回 認証取得一肉用牛1農場 採卵鶏1農場 更新、中間審査 各1農場 構築 フォローアップ等 指導 7農場 (酪農4、肉用牛1、採卵鶏2) 内部検証 3回
日本版畜産GAP指導推進支援事業 (中央畜産会)	農場HACCP認証農場等のJGAP認証取得を進めるため、指導員研修会への参加や認証取得を目指す農家の構築指導を行った。	指導員研修参加 5人 指導農家 2農場
野生獣衛生体制整備推進確立対策事業 (家畜衛生対策推進協議会)	中山間地域における野生獣被害低減対策等を支援するため、家畜衛生関係者を中心とした畜産分野での情報発信体制を地域に構築すると共に、野生獣に係る衛生実態の調査や研修会等を行った。	地域協議会の開催 3回 研修会の開催 2回 野生獣の衛生実態等調査 シカ 18頭 イノシシ 11頭
牛せき柱適正管理等推進事業 (日本畜産副産物協会)	牛せき柱の適正な管理を実施した食肉事業者に適正管理促進費を交付した。	食肉事業者 9業者 対象頭数 12,669頭

事業名	事業概要	実施内容
家畜伝染性疾病清浄化支援事業 (岡山県)	農場の飼育管理状況の調査、牛ウイルス性下痢・粘膜病(BVD)の防疫対策を推進するための啓発資料の作成・配付等により、BVDに関する知識を普及啓発し、適切な飼育管理や検査、ワクチン接種を指導した。また、検査により摘発されたPI牛(ウイルスを持続して保有・排出し、感染源となる牛)のとう汰に助成金を交付した。	農場調査 30 農場 啓発資料 1,000 部 PI牛とう汰 8頭
ASF(アフリカ豚熱)侵入防止緊急支援事業	養豚場における野生動物侵入防護柵の整備を図るための事業に対し補助することとし、もって侵入防止のためのバイオセキュリティの向上により畜産物の安定供給を図った。	野生動物侵入防護柵整備 6 農場 地域推進・指導 1 協議会
畜産・酪農生産力強化対策事業 (中央畜産会)	家畜の遺伝的能力を最大限に発揮させるための家畜生産性に係わるデータ収集と、生産性向上のためのデータ分析、技術指導に取り組んだ。	酪農家 3戸 和牛繁殖農家 2戸